大栗裕の採譜の実際 -- 「大栗文庫」所蔵資料の 2015 年度再調査報告を中心に

白石知雄（大阪音楽大学）

1. 大栗文庫について

1982 年 4 月 18 日　　大栗裕（1918-1982）死去。20 日　告別式。
　　6 月　　大栗裕氏作品管理委員会（委員長：朝比奈隆）から関係者への呼びかけ
　　11 月 18 日　　大阪音楽大学への大栗裕作品目録贈呈式
　　＝　大阪音楽大学付属図書館大栗文庫開設

・朝比奈隆校訂『仮面幻想』1985 年、カワイ出版
・『吹奏楽のための神話』1990 年、音楽之友社
・『巫女の詠えるうた』1991 年、ヤマハ教販
・大阪市音楽団『大栗裕作品集』1992 年、東芝 EMI
・『日本作曲家選輯　大栗裕』2001 年、ナクソス
・大阪音楽大学第 37 回吹奏楽演奏会「大栗裕の世界」2005 年 11 月 16 日

2007 年 4 月 6 日　　大栗芳子から大阪音楽大学への自筆資料の正式寄贈（著作権契約締結）
　　→　大栗裕没後 30 年記念演奏会、2012 年 4 月 20 日

所蔵資料：自筆楽譜、演奏会プログラム、各種録音資料など、点数等詳細は現在整理・確認中

2. 交響管弦楽のための組曲《雲水讃》（1961）の草稿について

資料 1: 交響管弦楽のための組曲《雲水讃》

作曲　　：1961 年 10 月　改訂：　1964 年 1 月
放送初演　：朝日放送、1961 年 11 月 27 日（第 16 回文部省芸術祭参加作品）
　　森正（指揮）、大阪フィルハーモニー交響楽団
演奏会初演：大阪フィルハーモニー交響楽団第 15 回定期演奏会、1962 年 1 月 12 日
　　朝比奈隆（指揮）、大阪フィルハーモニー交響楽団

第 1 楽章：「発願」（楽譜帳 p.20〜21）〜「つつて」（楽譜帳 p.21）〜「発願」の変奏
　　〜「お月さん」（楽譜帳 p.25）〜推移（「つつて」による）〜コーダ（「発願」による）
第 2 楽章：御詠歌 1〜御詠歌 2〜御詠歌 3〜御詠歌 4
　　＊旋律（楽譜帳 p.40〜41）は同一で楽器法が毎回変化
第 3 楽章：自作主題（楽譜帳 p.35）の提示〜「安達ヶ原」（楽譜帳 p.23）〜自作主題の展開
　　〜六斎念仏（出典未確定）〜「発願」の回想〜自作主題の再現

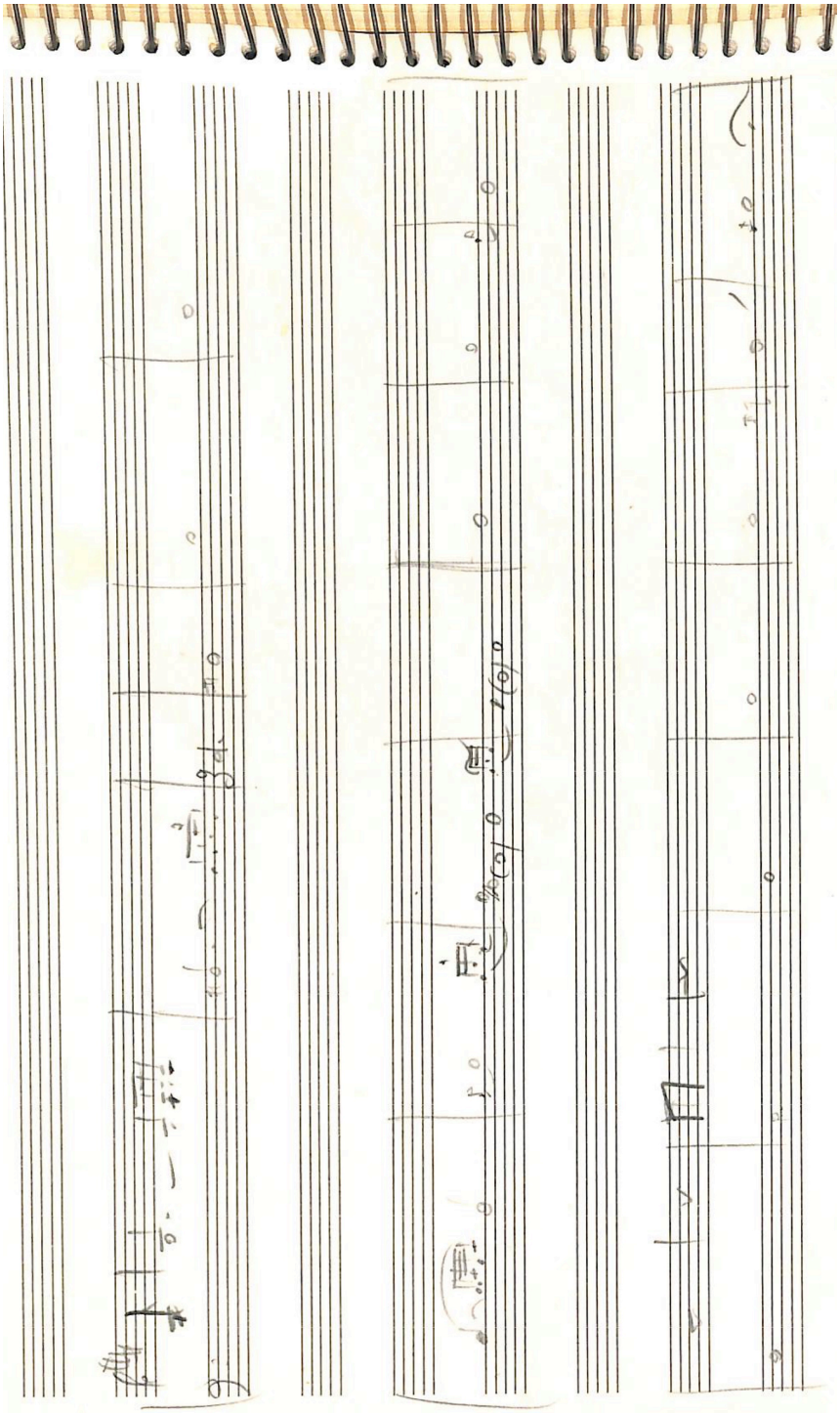
表 1：吉祥院六斎念仏と大栗裕の《雲水讃》

1979 年 調査報告書	1961 年 大栗録音	1961 年 《雲水讃》	2010 年 大祭	備考
発願	○	○	○	
つつて	△※	○	○	※上書きにより後半欠落
お月さん	×	○	○	
朝野	×	×	×	
鉄輪	×	×	×	
四ツ太鼓	△※	○	○	※上書きにより前半欠落
安達ヶ原	○	○	○	
玉川	×	×	×	
大文字	×	×	○	
祇園囃子	△※	×	○	※一部分のみ収録
岩見重太郎	×	×	×	
盛衰記	○	×	×	
羽衣	×	×	×	
獅子太鼓	×	×	○	
獅子舞	×	×	○	
獅子と土蜘蛛	△※	×	○	※一部分のみ収録
和唐内	×	×	×	
回向唄	×	×	○	

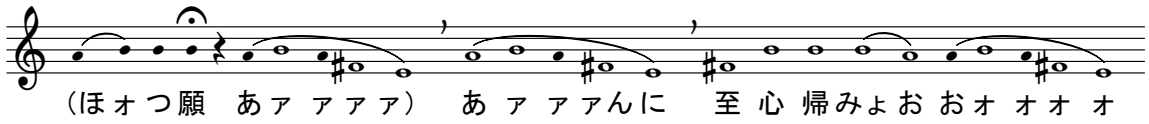
資料 2: 吉祥院六斎念仏の採譜を含む楽譜帳の内訳

p.1-18	民謡メドレー
p.19	?
p.20-21	【採譜 1】六斎念仏「発願」
p.21-22	【採譜 2】六斎念仏「つつて」
p.23	【採譜 3】六斎念仏「安達ヶ原」、【採譜 4】六斎念仏「?」
p.24	[未使用]
p.25	【採譜 5】六斎念仏「お月さん」
p.26-28	【採譜 6】六斎念仏「?」
p.29-33	【採譜 7】六斎念仏「?」
p.34	【採譜 8】六斎念仏「?」
p.35	《雲水讃》第 3 楽章主題草稿
p.36	御詠歌
p.37	和讃
p.38-40	?
p.40-41	御詠歌
p.42	《雲水讃》第 3 楽章主題草稿
p.43	[未使用]
p.44	?
p.45	[未使用]
p.46-50	?

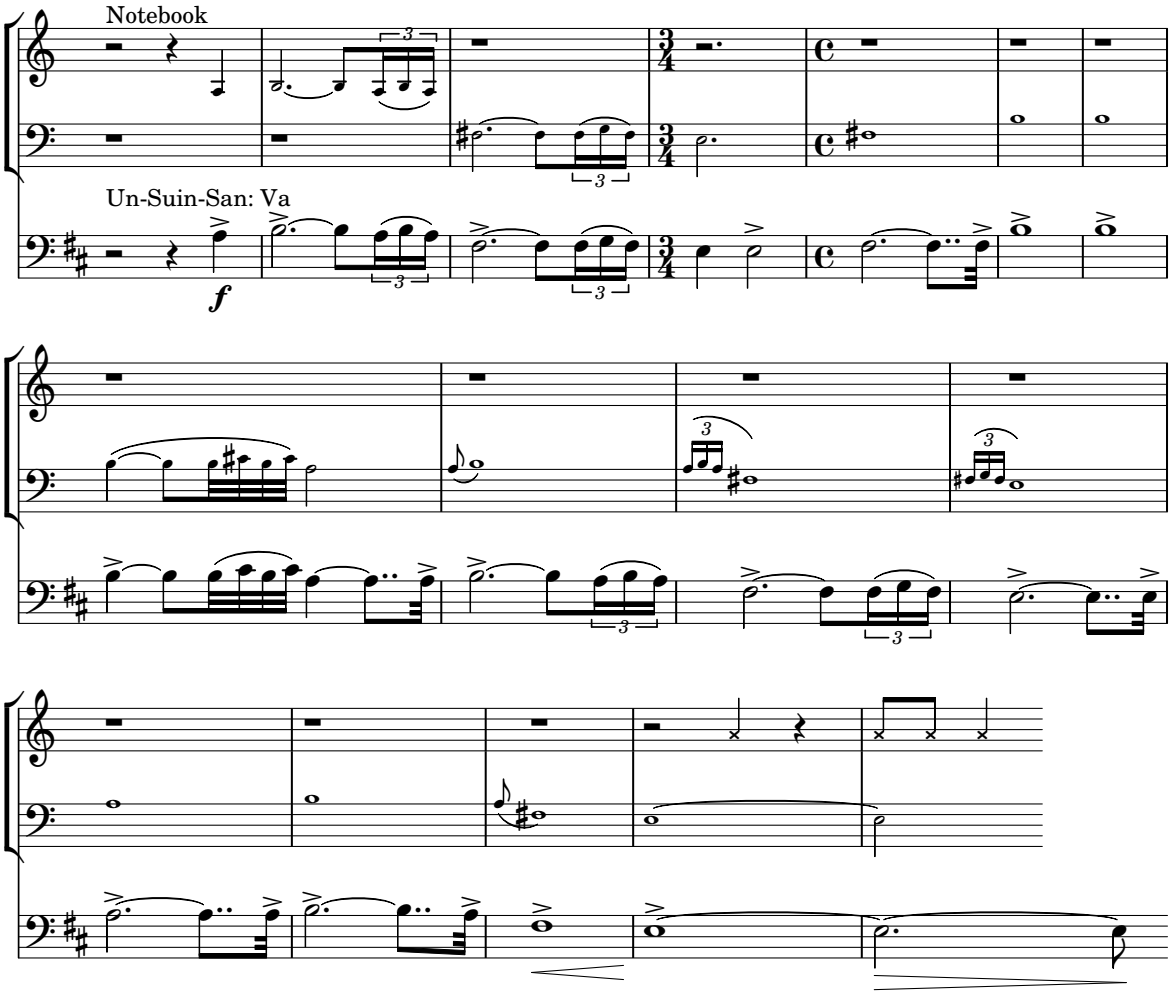
譜例 1: 吉祥院六斎念仏の採譜を含む楽譜帳 20 ページ 「発願」冒頭



譜例 2: 吉祥院六斎念仏「発願」（2010 年 8 月 25 日大祭より採譜）



譜例 3: 吉祥院六斎念仏「発願」（大栗裕採譜）と《雲水讃》第 1 楽章冒頭



3. 大栗裕と「ニューリズム」

引用 1:

太鼓を打つのが早く[ママ]、リズム感があることを指して、菅原組［吉祥院六斎念仏伝承団体］ではこれを「手が軽い」という言葉で表した。それとは逆に、打つのが遅く、リズム感が良くない場合は「手が重い」と言う。しかし京都市内の保存会の中には打つ早さ[ママ]を重視しない地区もあり、昭和 30 年のマンボブームの時期に、打つ早さ[ママ]を重視した吉祥院六斎を揶揄して「マンボ六斎」と呼ぶこともあった。
（相原　2003: 66）

4. 大栗裕とバルトーク

引用 2:

　朝比奈隆氏談　[……]大栗君の作品は各地で好評でした。特に各楽団の受取り方が非常によくこの郷土色の強い「雲水讃」はイタリーでは「大栗・バルトーク論争」にまで発展しました。
（無署名『関西音楽新聞』1962 年 3 月 20 日、1 頁）

引用 3:

交響管弦楽のための「雲水讃」
ドレスデン、ハンブルク等にて朝比奈隆指揮で演奏、ローマに於てバルトークと比較され好評を博す。
（大栗裕「作品表」、1963 年自筆、京都女子大学に提出）

引用 4:

ベルリン日報 1956 年 6 月 22 日
　[……]
　芥川也寸志の「絃楽の為の三楽章」を関西交響楽団の指揮者朝比奈隆が音楽院ホールで指揮したが、ヒンデミットとバルトークの影響の他に性格的にプッチーニ的（プチネスケ）音（クランクフォルム）が認められる。
　大栗裕の「大阪俗謡による幻想曲」は前者とは全く別個の趣きがある。
　此所にもバルトークの影響を指摘する人もあろうが、此の曲では模倣よりも我々に近い音楽感覚に献身している事がうかがわれる。[……]（オエールメン）
（朝比奈隆帰朝特別演奏会プログラム、1956 年 8 月 20 日、産経会館）

参考文献

相原進　2003　「民俗芸能の保存と後継者育成問題 -- 京都市内における『六斎念仏』の保存活動を事例に --」『立命館産業社会論集』30/3、53-68 頁
白石知雄　2011　「大栗裕と民俗仏教 -- 《交響管弦楽のための組曲「雲水讃」》の成立と改訂 --」『大阪音楽大学研究紀要』49、31-51 頁
輪島裕介　2015　『踊る昭和歌謡 リズムからみる大衆音楽』NHK 出版